

## 大災害に備えて加入

イチゴ2畝と野菜3.6畝、花3.8畝を栽培しています。

西日本豪雨で県内の農地に深刻な被害が出ていたのを見て、2020年に加入を決めました。2022年にイチゴにうどんこ病が発生したり、台風で花を栽培するハウスが冠水したことで売り上げが大きく減少しましたが、収入が減った部分を保険金でカバーできました。収入保険は補償される金額に対して良心的な保険料の設定になっていると思います。最近は予測できない天候が多く、いつ大災害が起きてもおかしくないと感じます。もしもの時のために、収入保険に加入しておく必要があると思います。



広島市 本田 正彦さん



世羅郡世羅町 亀田 知宏さん

## 翌年の経営準備の後押しに

2014年に父親からブドウ園を引き継いで就農し、現在は露地19畝とハウス6畝で14品種のブドウを栽培しています。

予測できない天候の年が続いているため、2019年に収入保険に加入しました。2023年9月に局地的な大雨により裂果が発生。安芸クイーンやハニービーナスなど生産量の多い品種に大きな被害を受けましたが、保険金を受け取ることができ本当に助かりました。翌年の経営準備の後押しにもなり、加入していて良かったと感じました。天候による被害は、対策にも限界があり予防が難しいですが、収入保険を支えにこれからもおいしいブドウを作り続けたいと思います。

## 想定外の被害に備える

耕作放棄地や休耕田で、水稻9.2畝と季節ごとの野菜1.3畝を受託栽培しています。

収入保険は補償対象の範囲が広く、予想外の不作や収入減少時のリスクに対応できるのが加入の決め手になり、2022年に加入しました。加入した年の6月、水田にスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)が大量発生し、食害を受けました。全体の約半分が食べられ、売り上げが半減しましたが、つなぎ資金を利用し、会社の運転資金に役立てることができました。

今後は耕作面積を20畝まで増やしていき、地域に貢献していけるよう頑張っていきます。



福山市 イトモス株式会社  
アグリ事業部執行役員社長  
本田 力さん



庄原市 藤原 富雄 さん

## 想定外の減収でも助かった

水稻4.3畝の栽培と肉用牛5頭を飼育しています。

2020年の6月に入院することになり、農繁期にもかかわらず水稻の管理が思うように出来なかったため、想定外の大きな減収になってしまいましたが、保険金を受け取ることができ、非常に助かりました。

農業はさまざまな要因に左右され、天候は自分の力ではどうにもなりません。新型コロナなど新たなリスクもある中で農業を維持するため、収入保険への加入は、私にとって“安心切符”となっています。私の経験を通して、周りの農家にも収入保険を勧めています。

## 資金面以上に気持ちの支え

2022年に就農し、三原市でモモ60畝とブドウ40畝を栽培しています。味や見た目など果実一つ一つの品質を向上させることを目指しています。

農業を持続していくために収入保険の必要性を感じ、2023年に加入しました。その年の収穫期にアライグマやアナグマによる食害が発生し、保険金を受け取りました。経営努力だけでは防ぐことのできない収入減少が発生したときに、補償してもらえることを実感し、資金面以上に気持ちの支えになっています。

今後は新たな品種にチャレンジしながら、品質の良いものを作っていきたいです。



廿日市市 辻 裕樹 さん



三原市 中村 淳 さん

## 営農を続けるための備え

野菜1畝とかんきつ15畝を栽培しています。

東京都出身で、2011年から茨城県で農業経営をしていましたが、2022年4月に佐木島に移住し、地域おこし協力隊と並行して農業をしています。瀬戸内特有の気候や真砂土での野菜作りが心配だったので、両県分の経営を合わせて収入保険に加入しました。

2022年に茨城県で豪雨や台風による被害で収入が半分以下に。資材費や肥料代が高騰していたので、保険金を受け取ることができて助かりました。

今後も佐木島で規模を拡大したいと考えています。将来にわたり営農できるよう収入保険で備えたいです。

## 収入保険加入者限定！

初めて購読いただく方は、今なら1年間半額(2,760円)で購読いただけます！

全国各地の農家の皆さんの取り組みなど役立つ情報を掲載しています。

毎週水曜日発行 年間購読料 5,520円



お申込み  
は最寄りの  
NOSAIまで